

笹倉温泉から 焼山 北面往復 86.5.3~4

メンバー L西川克之、白沢光代 2名  
5月3日 くもり

笹倉温泉から歩20分で火打山川の橋。ここから焼山北面台地がテグルのように立ち上がっている。シールをつけて登り始める。つがら折りの林道の急傾斜の残雪を、スキーアイゼンにものをいわせて神経をすりへらすトラバースをくりかえし、疲水きってようやく台地の上部に出る。おかんを伏せたような形の黒い焼山が見える。

起伏をさけて焼山川ぞいにコースをとり、アマナ平の手前で中央部により登っていくと、焼山まで延々と続く大スロープの末端に出た。さえぎるものなく正面に焼山を眺むことができる。このスロープの中央部(1270m)に今日はツェルトをきはる。

5月4日 くもりのち快晴

高曇りの中、焼山めざして出発する。やがて斜面は右に曲がり、傾斜も増してくる。焼山北面上部は急峻で雪のない所が多い。泊岩方向へトラバースして進み、雪がなく木が繁った沢の隙を板をかっいで越え、またもや神経をすりへらすトラバースを続ける。2100mでまた林にぶつかったので、スキーをデポし直登する。

かん木の中をネマガリタケにつかまり、雪のつまった小さなルンゼをすぎ、こうなれば道も何もない、ガレバをただただ上へとたどると稜線に出た。右の尾根を越え、雪溪を横断して再び稜線に立つと、頂上とそこから続く火口壁の尾根がすぐ先に見える。しかし尾根は険しい岩場でとりつきようがない。側壁は雪がついているがそこまですらトラバースできようがない。一瞬敗退かと思ったが、とりあえず直下へ行ってみるとそこはお釜の北側の雪の土手だった。焼山頂上の地形がやっとわかった。険しい火口壁はお釜の南側半分がけで、北側は10mほど高い雪の土手になっている。いったんお釜の底に下り、雪壁を登ってついに頂上に着いた。後立山連峰がかすんで見える。金山はまだ真白だが、妙高・火打の稜線は雪がない。しかし火打からスキーをがっいで縦走してきたるパーティーが通りすぎた。

お釜から、2260m 岩山峰の左の雪溪を下り、左にトラバース気味に行ってデボ地に着いた。トラバースして再び沢のヤブを通りぬけると、北面台地の滑降に移る。一番楽しい所なのだが、やや重い雪でスキーが操作しづらい。このころから雲一つない好天になった。ツェルトに戻り、ゆっくりお茶を飲んで午後の一時を過ごす。

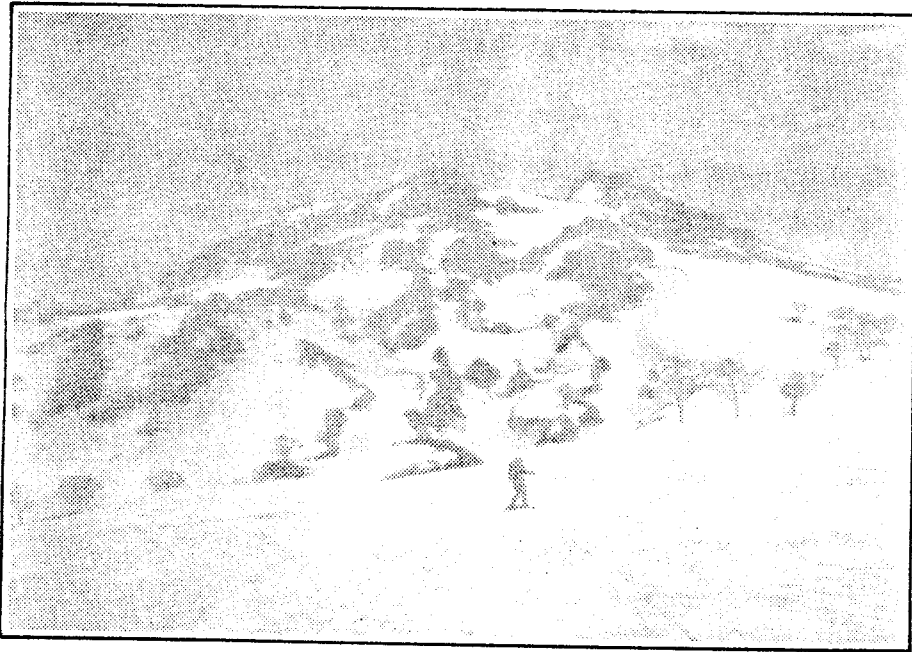
再びスキーをつけ、荷物をしょって下山開始。大スロープが終わると台地の末端まではあまりすべらない。林道に出てどんどん高度を下げ、火打山川の橋に出て滑降は終了。笹倉温泉から釜魚川に出て、大糸線の夜行で5日の朝新宿着。(西川記)

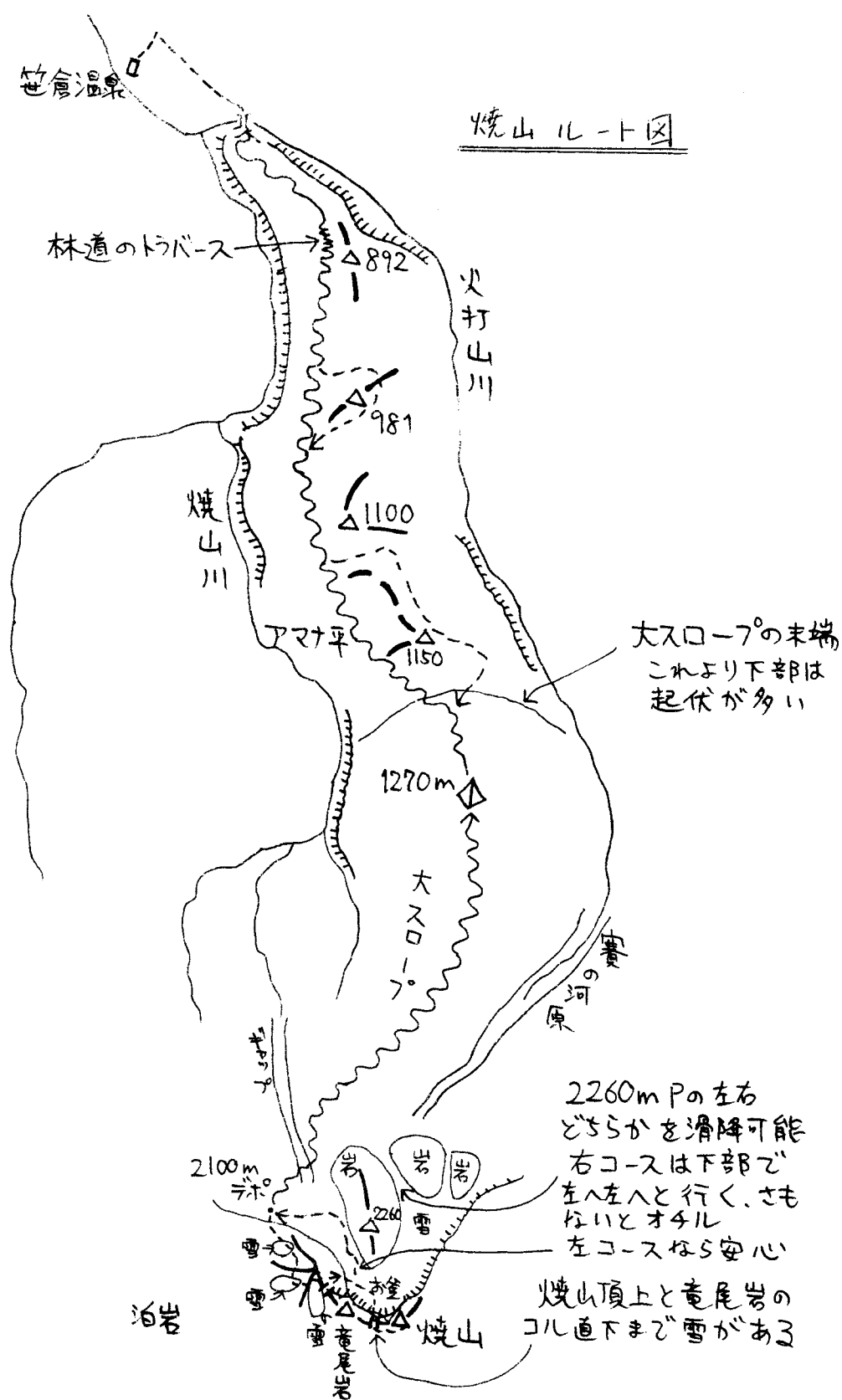
### コース・タイム

5月3日 笹倉温泉 9:35 → 橋 9:55/10:10 → 810m 11:10/11:30  
→ 1270m 14:50

5月4日 1270m 5:55 → 2100m 9:00 → 焼山 10:35/10:55  
→ 2100m 11:40/12:00 → <sup>(デボ)</sup> 1270m 13:00/14:05  
→ 810m 14:45/15:00 → 橋 15:20 → 笹倉温泉 15:35

### 焼山北面台地の滑降





焼山ルート図

林道のトラバース

火打山川

焼山川

アマナ平

大スロープの末端  
これより下部は  
起伏が多い

大スロープ

河原

2260m Pの左右  
どちらかを滑降可能  
右コースは下部で  
左へ左へと行く、さ  
もないとオチル  
左コースなら安心

焼山頂上と竜尾岩の  
コル道下まで雪がある

泊岩

竜尾岩

焼山